

なんかい、109号

2018年2月1日発行

南海寮 広報委員会
熊本県天草市本町下河内1685番地の1
TEL 0969-23-3850
FAX 0969-22-4977
Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp
URL http://www.nankairyou.or.jp/

辺り一面銀世界（1月11日撮影）



年頭所感

新たな歴史への第一歩

施設長 松浦郁太

昨年を振り返ると、政治では、森友・加計問題や閣僚の失言が相次ぐ等、長期政権のおごりが見え、産業界では新車の無資格検査問題や製品データ改ざん等、日本が誇るものづくりの現場で不正が明るみになるなど様々な課題が浮上した年でした。不正を防ぐ対策のアンケートでは、

6割強の企業から、不正を許さない企業風土づくりが重要との回答が得られています。組織のガバナンス強化、風土づくりはどんな組織にも必要であり、意識して取り組んで行かなければと思います。

7月には福岡・大分地方を襲った九州北部豪雨で多くの死者・行方不明者を出す等悲しい出来事もありました。近年では考えられない集中豪雨で、災害への備えを考え直すと同時に、平時からの訓練の実施等取組みの強化を図る必要性を感じました。

当法人では、建替え工事が主な出来事でした。3月の着工から11月の引越し迄の8ヶ月間、旧館と仮設の限られた生活空間の中、利用者の皆さんには何かとご迷惑と不自由をお掛けしましたが、11月には新館での

快適な環境の下で新しく生活をスタートすることが出来たのも、ひとえに国や県、各関係機関のお力添えと設計・施工業者、その他多くの下請け業者さんの御協力の賜物だと思っております。熊本地震復興の影響で人手や資材不足等が懸念されている状況もあり、工事の進捗を心配しておりましたが、工程通り進めていただき、感謝を申し上げたいと思います。現在は、外構工事を残すのみとなり、2月中旬頃迄に全ての工事が完了する予定です。

本年は3年に1度の障がい福祉サービス報酬改定にあたり、見直しの概要が少しずつ明らかになる予定であり、動向を注視していきたいと思えます。建物等のハード面はほぼ整いましたので、今後はソフト面の充実が課題だと思います。リニューアルした建物を活用した、新たな事業展開、新生南海寮の歴史を一步步作り上げていく責務があるとの認識を共有しながら地域貢献・公益的な取り組みの強化、業務の見直し・改善改革、個別支援体制の充実、人材確保・育成・定着等を図り、地域に必要とされ、信頼される存在感のある法人・施設を実現するためのステップアップの年にしたいたいと思えます。今後とも関係者の皆様の御支援とご協力をお願い申し上げます。

新本館が昨年11月に完成し、新たな住環境での生活がスタートして3ヶ月が経過しました。ハード面の充実により、どんなところが充足・改善できたのか。また良い点だけでなく新たな設備等における現状の課題等について「支援」と「給食」の2つの視点から報告してもらいました。

支援編

この度、ご利用者並びにご家族の皆様をはじめとして、関係各位のご理解とご協力により計画通りに南海寮の建て替えが叶いました事をこの場をお借りして感謝申し上げます。

昨年10月末より引っ越しを開始し、11月3日には新館への引っ越しを完了させ新たな生活がスタートして早3カ月が経過しました。

広くゆとりのある各スペースにはエアコンが完備され、廊下もトイレも脱衣室も快適です。冬季には室内でジャンパーを着込んでいた事も振り返れば、いかに利用者の皆様に不自由をおかけしていた

かを思い知ります。またこれまで制限されていた活動スペースも広く複数用意され、個別活動や静かな環境を好まれる方にも十分対応が出来、地域住民の皆様との交流も可能となりました。

一方、広く2階建ての建物では、避難経路や事故防止、所在確認等にも新たなマニュアルの作成とリスクマネジメントが必要とされており、従来の各委員会活動においても、取り組むべき業務が多岐に渡り、その編成にも手を加える必要性が生じています。何より利用者個々の心身の状態やその個性、意向を尊重した、楽しみと生き甲斐に繋がる日中活動の見直しとその編成が喫緊の課題であります。

まだまだ課題点を挙げれば限りがありませんが、これらの課題をクリアし、更なる支援の質の向上を実現する為には、職員個々が現状に甘んじることなく自らの課題を正しく理解し、資質向上に向けた持続的な取り組みが不可欠です。あたりまえに切磋琢磨できる職場環境作りもこれからの重要な課題であると考えています。

開設以来42年間培ってきた私たちの知

識や技術をベースにして、更に血の通った温かみのある安心・安全の利用者支援実現のために、一歩前進させるべく歩を進めて参ります。(統括部長 中嶋幸三)

給食編

昭和から平成へと移行行く時代の流れとともに、南海寮にも42年の月日が流れました。施設の老朽化は否めず、厨房において、3S(狭い、寒い、洗浄機がない)に悩まされておりました。今回、

整備事業が実施され、建て替え工事を行う事となり、衛生的で機能的、作業効率のよい厨房の提案ができたのではないかと思います。引っ越し後、当初は新しい厨房に戸惑い、「お茶碗どこ?」「醤油どこ?」といった他人の台所にでもいるかのような状態でしたが、今では包丁を握る手も軽やかに、スムーズに業務が行えています。

また、食堂のテーブルと椅子、カーテンも新しく揃え、落ち着きある癒しの空間になったと思います。しかし、広くなった食堂の掃除は思っていたよりも大変で、専用の掃除道具を揃え、職員は汗水

流して掃除に励んでおります。

来年度からは新しいハードに応じた日課や行事の見直しなども随時行っていく予定で、今後はより生活に合わせた食事時間の検討も必要かと思えます。その他にも食堂の外にはウッド調のテラスとオーニング(日よけ)も備えられ、このちよっとお洒落なスペースを利用したカフェも開店しようか、夏には花火大会に合わせてビヤガーデンもできるかもなどと夢は広がります。

南海寮が生活の場である入所の皆様には、単調になりがちな施設での生活ですが、食事を通して四季を感じ、様々な行事やイベントを行うことで生活に潤いと楽しみを感じて頂けるよう、この恵まれた食空間を生かせるような給食の在り方を探っていきたいと思っています。これから、ここから、また新たな南海寮の歴史が始まります。(管理栄養士 田中佳子)



大分一泊旅行 (11月)



どんどや (1月)



ふるさとまつり (11月)



個人ではなく、チームプレイ による共通支援を

支援員 小川 明奈

行動障害が伴う方は生まれつきではなく障害特性に加え、周囲の支援体制や関わり方といった環境要因が関係していること、また強度行動障害はミスマッチや不適切な支援の積み重ねによって徐々に作られ、抑えていたものが、ある時一度噴き出して現れる状態である事を学ぶことができました。行動障害を起こさないようにする取り組みは、障害特性を理解し、一人ひとりにあった環境の中で継続的に支援を行うことが大切であり、支援方法にも写真や絵、スケジュール表を使う事で視覚的にわかりやすく理解でき、また本人の好きな絵やキャラクターを取り入れることで、より分かりやすくなります。研修では、話し言葉が「分からない」「伝えられない」状況を疑似体験する機会があり、自分の知っている言葉やジェスチャーがあるだけで、聞く方の受け取り方も理解しやすくなります。ただ

伝える側、受け取る側がうまく意思疎通出来ずに「伝わらない」「何と言っているのか分からない」とお互いにストレスを感じる事もわかりました。今までの支援を振り返り、話し言葉に依存し相手に伝わっておらず、理解しにくい事もあったのではないかと思います。その中で写真や絵などは言葉が少なくても視覚的に理解しやすく、分かりやすい部分も多くお互いのストレス軽減につながる代替コミュニケーション手段だと改めて感じました。他にも自閉症当事者のご家族からの話を聞く機会があり、昼夜問わず泣いたり落ち着かずに、自分の体調や不快なことを言葉にしたり、表現できずに突然入院になった話をお聞きすることができました。今回の研修を通して支援の際には様々な角度から見ることが大切であり、行動障害が生じる際にはその障害特性と行動障害につながった原因や背景を考えると大切で、講師より「個人で支援を行うのではなくチームプレイが大切」と話があり、周りの方からの協力を得て共通支援をすることで利用者の方の成長につながると思います。

やってみせ、言ってみせて聞かせて させてみて、ほめてやらねば…

支援員 高瀬 大介

SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）研修というものは、人付き合いを身につける「コツ」を学ぶ研修でした。社会生活を営む際に仕事の種類は多様性で広がりを見せていますが、人付き合いは全てにおいて共通しています。その共通した場面やシーンを支援に活かすような取り組みでした。私たちが普段何気なく交わしている「挨拶」という場面においても4つの行動が必要で、①まずは「挨拶」を受けたと認識する事。②次に「挨拶」を受けたと考え処理する。③その後「挨拶」を返す。④会釈する。その4項目以外にも「笑顔」「距離感」「声量」「動作」なども加わる為、細分化すればより沢山挙げられます。そういった場面を利用者の方と共にグループで考えながら、行動し「出来ている事を褒めながら」行っていくことが重要である事を学びました。また、できて

いない利用者の方でも「これは（こまでは）できていたね」と必ず褒めることが重要で、さらに自分の気持ちを「これはできていたね。私も嬉しいです」と伝えると、より褒められた気持ちが強くなる事を学習しました。研修の中で講師が何度も使われていた言葉があり山本五十六の名言「やってみせ、言ってみせて、させてみて、ほめてやらねばひとは動じ」がまさにSSTを体現しているという事でした。まずは、お手本を見せる。次に言ってみせて聞かせる。（行動を確認する）その後させてみて（行動させる）最後に褒める事だという事です。私たちも普段利用者の方の「できた」事には気付きやすく、褒める事はありますが「できている事」に関しては当たり前として接する事が多いように思われます。人付き合いの「コツ」を身につけるように利用者の方の普段できている良い場面も、まず気付いて「褒める」事をし、できなかった部分に関しても「こまではできた」と伝えながら楽しく取り組みたいと思います。

福祉人材就職フェア FUKUSHI meets!@

11月23日、熊本交流会館パレアにて熊本県内の社会福祉法人が共同で開催する就職フェアに当法人も出展してきました。

今回の就職フェアは熊本県知的障がい者施設協会としても初めての試みで出展法人の中から実行委員会を立ち上げ、企画運営までを行い、福祉を専攻する大学生や専門学生向けに「FUKUSHI meets ～わくわくする福祉に出会える～」のスローガンで、障がい福祉の仕事紹介や施設現場を学生へ認知、興味を持ってもらい、福祉の担い手を増やしていこうという目的で開催されました。

私達の法人としても今まで就職フェアに参加したことがなかったため、まずは委員会を立ち上げ、そこからどういう戦略やアプローチを行っていくのかを何度も協議し話し合いを重ねていきました。出展法人の中で唯一天草からの出展という事もあり、地理的不利な天草をどうアピールするかがポイントとなり、自法人の魅力や業務内容の紹介はもちろん、給与や待遇面、地域のPRや、働いているスタッフのライフスタイルを紹介し、実際に働いた時のイメージが分かりやすく学生に伝わるよう進めてきました。

当日は学園大や九州看護福祉大学、尚絨大学など100名ほどが集まり、20名ほどの学生に話を聞いてもらって、実際に施設見学に繋がった方もいました。開催前は正直、本当に学生が話を聞きに来てくれるだろうか、地理的に不利な天草にどう呼び込むか不安でしたが、学生達の反応も好感でフェア後のアンケート集計でも当法人のイメージを魅力的、楽しそうと書いてくれた学生がたくさんいた事が何より嬉しく思いました。

生産年齢人口が減少の一途を辿る中、特に天草は人口減少が顕著であり、今後人材確保がますます難しくなることが予想されます。今の若い人達に福祉の仕事をしたい、地元で就職したいと思って貰えるように福祉の魅力や法人のPRをどんどん情報発信していきたいと思っていますし、今後も組織内での採用に対する意識を高めていき、福祉人材の確保に繋げていければと思っています。

(松浦徳彦)

初めて就職フェアに出展しましたが、他の施設の方々と繋がりが出来た事、就職先に求めている大学生の声を直接聞く事ができ、とても貴重な体験となりました。

当日の服装については、参加メンバー内で何度も話し合いをしました。クリスマスの1カ月前でもあり、天草がサンタクロースの聖地である事のアピールも兼ねて、天草市のサンタTシャツにサンタ帽を被り、サンタクロースコーデで参加して来ました。

全体的に女子大学生が多く、学生の方から「サンタのこの話を聞きたい」とブースに来てくれる事が何度もありました。学生が話しかけやすい格好（スーツ禁止）であった事・年齢が近かった事で、話しかけやすい雰囲気作りができたのではないかと感じています。

また、他の施設の取り組みや製品等を知る機会にもなったので、自分達の施設での新たな取り組みに繋げ、今後も採用活動を積極的に勧めていきたいと思いました。(京塚香葉)

今回就職フェアに参加し、天草外の施設の方との話ができて、自分自身も成長ができたと思います。他施設の作品や販売されている物を見て食品関係やアロマキャンドル、手芸品の中でも手の込んでいる作品が多数あり、良い刺激となり私も寮で新商品を作りたい！と思い頭の中でイメージを膨らませています。フェアに参加し自分と同年代の方と接する中で、就職に対してどういうイメージを持っているか、就職をする際に見るポイントとして福利厚生という意見も多数ありましたが、職員の雰囲気や同年代の方がいる事など私が想像していたポイントと違う部分があった為、今後就職フェアに参加する場合にはその点も含めて会話をしていけば良いと思いました。今回の就職フェアは他の施設の方との交流も含め様々な部分で勉強でき良い経験となりました。次回就職フェアに参加するとなった場合には今回学んだ事を生かしていきたいと思っています。

(西岡咲貴)



通所センターだより



先月の大雪、ここ本町はいつまでも雪が溶けず、旧本渡市内から来た人は「同じ天草なのに別世界」なんて思われたのではないのでしょうか。まだまだ気候は不安定です。皆さまご自愛くださいませ。

さて、前号のセンターだよりで「ぷっ」と吐き出した種から実ったスイカの紹介をしましたが、センターの実りはまだまだ続きます。5月に植え付けたサツマイモが大収穫でした。そのサツマイモを使って何かできないかなと思い、年の締めくくりとしてガネ揚げパーティーをする事になりました。作り始めて約5時間、た〜っくさんのガネ揚げができたの

でガネ揚げタワーにしてみました。周囲からは「うわ〜っすごい！」と歓声が上がリ、皆さん不思議そうに眺めていらっしやいました。Eさんはガネ揚げタワーの前で何度もポーズを決められていた為パシャリ！その中のベストショットを載せさせて頂きます。乾杯担当Yさんの「1年間お疲れ様でした〜」という元気の良い声掛けにて麦茶で乾杯。外はカリッと中はほっくほく♪あまくて衣との相性バッチグーでした！という事で2018年スタートしました！今年も成年でもあり、昨年よりもさらに「ワン」ダフルな1年にしたいと思っている職員一同です。 京塚 香菜

職員研修会等参加報告

- | | |
|---------------------------|--------|
| ■ 成年後見制度促進研修会 (11月) | 中嶋 |
| ■ 療育公開講座 (11月) | 小川明 |
| ■ 福祉サービス苦情解決研修 (11月) | 金子史 |
| ■ 知的障がい者施設協会50周年講演会 (12月) | 松本他 3名 |
| ■ 退職共済事業事務説明会 (12月) | 佐藤 |
| ■ タイムマネジメント研修 (12月) | 松浦徳 |
| ■ サービス管理責任者研修共通講義 (12月) | 櫻井 |
| ■ スーパービジョン研修 (1月) | 松浦徳 |

新任職員紹介 ~よろしくお願ひします~



支援員 藤木博文



支援員 池田恭輔



支援員 柴田怜奈

今後の予定

- 3月4日 南海寮本館落成式
- 4月 家族会総会

編集後記

「ここは飛行機のように（良く）見えるばな」これは、新館へ引っ越し初めて迎えた元旦。2階ホールから天草空港を眺められていたKさんの言葉です。寮で新年を迎えられた他の利用者の方もKさんの言葉を聞いて、一緒に外を眺めながら「景色の良かあ」と、窓から見える景観を楽しんでおられました。ほんの数分の場面でしたが、私の中でとても清々しく新年を迎えられた貴重な時間となりました。

新たな年を新たな環境で迎えることができたことに感謝をして、いつまでも綺麗で利用者の方にとって快適な施設である様、職員一同尽力していきます。本年も同広報紙「なんかい」のご高覧の程よろしくお願ひいたします。

ohnaka



用務員 小松山直美



用務員 吉永有沙

新規入所利用者紹介



原田久光さん
(天草市)



福島たか子さん
(天草市)

退所/山下 金也さん (宇城市) H. 29. 11. 15逝去
中元ムツコさん (天草市) H. 30. 1. 12逝去